

平成26年度防災訓練を実施

核融合科学研究所では、平成26年10月28日に、土岐市南消防署の協力を得て防災訓練を実施しました。今年度の防災訓練は、震度6弱の大地震が発生し、研究所構内の食堂厨房で、負傷者が発生・出火したという想定で行われ、職員や学生など252名が参加しました。

今回の訓練は、地震等の災害時に対応する自衛消防隊を2部隊に分けた組織体制で実施しました。自衛消防隊の班員は、研究棟や管理・福利棟などを担当する「本部隊」と、大型ヘリカル実験棟などの実験施設を担当する「地区隊」に分かれ、緊急車両の誘導、電気やガスの状況確認、実験設備の安全確認等の活動を迅速に行いました。また、班員以外の所員は、研究所の構内2カ所に設置された避難場所へ速やかに避難しました。

負傷者の搬出、火災の鎮火、所員の安否確認が完了した後、土岐市南消防署による高所作業車を用いた救出活動の実演や、所員による消火栓と消火器の取扱い訓練が行われました。土岐市南消防署からは、「整然とした避難ができていた。有事の際は、火災によって発生する有毒ガスに注意しながら、パニックを起こさないよう、今回の訓練のように冷静に行動することが重要」との講評がありました。



高所作業車による救出活動の実演



所員による消火器訓練

第16回日本表面科学会関西支部 市民講座にて竹入教授が招待講演

平成26年11月2日に、くにびきメッセ(鳥根県松江市)で開催された第16回日本表面科学会関西支部市民講座「省エネ技術と未来エネルギーへの期待―皆で考えるエネルギー問題―」において、竹入康彦教授が「太陽のエネルギー・核融合の実現を目指して」というタイトルで講演を行いました。この市民講座は、第7回表面科学国際学会(The 7th International Symposium on Surface Science: ISSS-7)の市民チュートリアルを兼ねて、公益社団法人日本表面科学会関西支部が主催しました。講演では、核融合発電を実現する必要性や、核融合発電の仕組み、実現に向けた見通しなどについて、分かりやすく解説しました。



平成26年度実験室内消火訓練を実施

核融合科学研究所では、毎年、大型ヘリカル装置(LHD)のプラズマ実験期間中に、消火訓練を実施しています。今年の訓練は、プラズマ実験の第2週目にあたる平成26年11月11日(火)から11月14日(金)にかけて、毎朝9時15分から行いました。後半の2日間の訓練は、2016年度から実施が予定されている重水素実験を想定して行われ、各日とも70名を超える実験関係者が参加しました。

訓練は、プラズマ実験中に本体室内のLHD上部のコイルから出火したとして、火災報知器を模擬発報させて開始しました。制御室では、実験責任者の指示により、安全確保や装置停止など非常時の措置が取られるとともに、緊急連絡体制に従った関係部署への模擬連絡が行われました。本体室では、職員で構成した自衛消防隊の隊員が、制御室からの指示により、模擬出火現場での初期消火活動やLHD関係装置の状況確認などを迅速に行いました。一連の対応状況は制御室に掲示されたチェックシートに集約され、訓練終了後にはミーティングを行って、非常時の指示系統や状況確認の手順などについて改めて確認しました。



炭酸ガス消火器による初期消火活動を行う自衛消防隊隊員



訓練後のミーティングでチェックシートを参考に非常時の対応を再確認



大学共同利用機関法人 自然科学研究機構

核融合科学研究所 発行

NIFS NEWS No.220(2014年10, 11月号)

〒509-5292 岐阜県土岐市下石町322-6

TEL: 0572-58-2222 (代表) FAX: 0572-58-2601

URL: <http://www.nifs.ac.jp/>

E-mail: nifs-news@nifs.ac.jp

* 過去のニュースはホームページにてご覧いただけます。

《複写される方へ》

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(社)日本複写権センターと包括複写特許契約を締結されている企業の方でない限り、著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体から許諾を受けてください。

一般社団法人学術著作権協会 〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル3F

TEL: 03-3475-5618 FAX: 03-3475-5619 E-mail: info@jaacc.jp 著作権の転載・翻訳のような、複写以外の許諾は、直接本研究所へご連絡ください。